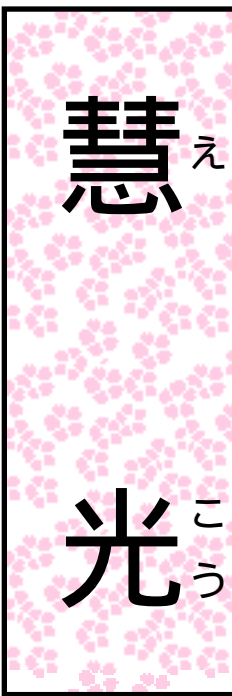




バラが咲いた バラが咲いた 黄色のバラが (今月8日撮影)



金光寺寺報
第179号
発行所 金光寺
宮崎県西臼杵郡
五ヶ瀬町大字鞍岡
5927番地
0982
83-2338

今月のことば

みだちかき ふたい じねん
弥陀の誓いに帰しぬれば 不退のくらい自然なり

「宗教は必要ですか」という問いを聞くことがあります。その問いは「宗教など不要です」と、実は言いたいのかも知れません。「宗教を信仰しなくても、立派に社会で成功している人はたくさんいるではありませんか」とか、さらには「無宗教であることこそ良識ある人なのだ」などという考えが見え隠れしています。いま、この問いをきっかけとして考えてみたいのは「必要性を感じる」という点です。

生活習慣病や初期の糖尿病には、病気の自覚がほとんどありません。しかし、お医者さんが生活の改善や治療の必要性を説きます。むしろ治療の難しさを知り、病状に苦しむ多くの姿を見てきたお医者さんだからこそ、治療を、そして治療に先立つ予防を切に訴えるのです。

ですから、病人であるという自覚と、本来の

治療の必要性とは別のことがらだということが言えるでしょう。

同様に、わたしが宗教を必要としていなくても、宗教を説いてくださる、すなわち真の救いを与えずにいられないお医者さんが、阿弥陀さまだということができます。無明の病のわたしに真実を与えて真実たらしめる、つまり仏とならせる救いです。

今月のことば「弥陀の誓いに帰しぬれば不退のくらい自然なり」は、この阿弥陀さまの「あなたを救う」という誓いに帰依し、すべてをおまかせしたならば、ただちに「不退のくらい」に入る、と示されています。実は、これも龍樹菩薩が、阿弥陀さまの救いの特徴の一つとしてお讃えになったことがらです。

(本願寺出版社刊「大乘」誌より転載)

仏事お休みのお知らせ

下記の日は緊急を除き、仏事は行いません。ご協力をお願いします。

- 5月
 - 16日(月) 午後5時~
 - 19日(木) 午後
 - 26日(木) 午後
- 6月
 - 1日(水) 午後~ 終日
 - 2日(木) 終日
- 7月
 - 26日(火) 終日
- 10月
 - 15日(土) 午後
 - 16日(日) 終日

4月、次の金光寺門信徒の方がご往生なさいました。謹んでお悔やみ申し上げます。

- 2016年 4月 2日 寂満95歳 荒谷 白瀧 勉様
- 2016年 4月 4日 寂満60歳 東光寺 橋本 富喜男様
- 2016年 4月 18日 寂満85歳 荻原 青木 幸子様

ホームページ開いています。
URL <http://konkhoji.jp/>
5月9日現在 アクセス数 77,402人

熊本地震、びつくりしましたね。十四日の揺れ(前震)で二階に寝るのをやめ一階で寝ました。翌日はもう揺れないだろうと思いましたが、昨日、揺れたので、十六日未明の揺れ(本震)で再び一階に降りて寝ました。その後、一週間ほど枕元に現金や預金通帳、印鑑を入れたリュック、携帯電話と懐中電灯を置き、一階で寝て用心をしていたつもりでしたが、「昨日、揺れたと知るとる？」と坊主から何日もたずねられ、何度も気付いていないことを知ってがくぜんとしました。蓮如上人は人が往生していく縁を「我やさき、人やさき」とお書きになり、「私が先か人が先か」とお示しになりました。私の場合は「人やさき、人やさき」です。何事(大災害)があっても娑婆の縁尽きるのは自分が一番最後と思っています。しかし、前述したように、地震で揺れても気づかず寝ている私は、人よりも被災する可能性が極めて高いことを知り、不遜な思い(人やさき、人やさき)を持つてはならないと教えていただきました。(住職 松井卓郎)

住職ひとりごと

仏教用語豆辞典

知事

知事?そうです。都道府県の「知事」のことです。知事は、明治時代の初めに設けられた官職の一つで、造幣事務を取り扱う最高責任者でした。

が、のちに、各都道府県を統括する代表者として、その最高責任者の職名となりました。中国では、知事は州や県などの地方の長官を指していましたから、それがわが国に入ってきたのでしよう。それが仏教と関係があるのか? まあ聞いてください。仏教では、寺院の雑事や庶務をつかさどる僧の役名でした。よく庶務をつかさどり、教団の財物を保護し、諸僧の希望するものに適応し、戒律をよく保ち、公正な心の持ち主、そんな

聖者を知事に任命しました。禅宗寺院には六知事が設けられ、諸務を分担しています。このように、仏教寺院にとつて、仏道を修業する僧たちのために、知事は重要な役割をもつ僧職でした。知事は、住民のための公僕です。 (本願寺出版社発行 辻本敬順著 「仏教用語豆辞典」一〇〇 PART 1 から)

聞くことは信心なり

母に抱かれて笑う幼子は、母の慈しみを信じて疑うことがない。慈愛に満ちた声を聞き、ただその胸に身をまかせ、大いなる安心の中にある。親鸞聖人は仰せになる。

聞其名号といふは本願の名号をきくとのたまへるなり 大きくいふは本願をききて疑ふところなきを聞といふなり また大きくいふは信心をあらはす御のりなり

南無阿弥陀仏は、「必ず救う、われにまかせよ」との慈愛に満ちた如来のよび声。このよび声をそのまま聞いて疑うことがない、それを信心という。自分の見方をより処とし、自分勝手な思いで聞くのであれば、如来の慈愛のよび声をそのままに聞くことにはならない。

母の慈愛の思いが、幼子の安心となるように、如来のよび声が、そのまま私たちの信心となる。

(『拜読 浄土真宗のみ教え』 十九頁)

法語の世界

〈原文〉

「至りてかたきは石なり。至りてやはらかなるは水なり、水よく石を穿つ、心源もし徹しなば菩提の覚道なにごとか成ぜざらん」といへる古き詞あり。いかに不信なりとも、聴聞を心に入れまうせば、御慈悲にて候ふあひだ、信をつべきなり。ただ仏法は聴聞にきはまることなりと云々。

(蓮如上人御一代記聞書 百九十三)

〈現代語訳〉

「きわめて堅いものは石である。きわめてやわらかいものは水である。そのやわらかい水が堅い石に穴をあけるのである。心の奥底まで徹すれば、どうして仏のさとりを成就しないことがあるのか」という古い言葉がある。信心を得ていないものであっても、真剣にみ教えを聴聞すれば、仏のお慈悲によって、信心を得ることができるのである。ただ仏法は聴聞するということに尽きるのである」と蓮如上人は仰せになりました。

初盆について

今年初盆をお迎えになるお家で、お座をお考えの方は早目に連絡ください。連絡いただいた順番に日時を決めています。お座をお考えでない場合はこちらからお参りの日時を連絡します。すでに次の日時は決まっています。参考にしてください。

- 13日
 - 9:00 ~
 - 10:00 ~
 - 11:00 ~
 - 13:00 ~
 - 14:00 ~
- 14日
 - 9:00 ~
 - 10:00 ~
 - 11:00 ~
 - 12:00 ~
 - 13:00 ~

四月十四日熊本県益城町を震源地とした前震、同十六日熊本地方を震源地とした本震すこかったですね。この熊本地震によりお亡くなりになられた方々、いまだ行方不明の方、そして被災された方々に心よりお悔やみ、そしてお見舞いを申し上げます。

益城町や熊本市内、御船町、宇城市豊野町にお住いの当山のご門徒の皆さんも瓦が落ちたり、家具が倒れたり、食器が割れたり被害を受けられました。幸い、人的被害がなかったことにほっとしたことです。

鞍岡でもあちこちで地震の影響がありました。同じく被災された方々にお見舞い申し上げます。

いっどこで自分の命にかかわる災害が起きてもおかしくないことをあらためて知らされたことでした。「後生の大いと思つたことでした。地獄行きが当たり前のこの身を必ず救うとはたらいてく

ださる阿弥陀さまのお慈悲に助けられなければ迷いの世界を抜け出すことはできない、そしてそのためには阿弥陀さまが何故「名号(南無阿弥陀仏)」を救いの手立てとしてご用意くださったかをお聞かせいただくしかない、ここに掲載した法語から教えていただきます。

親鸞聖人の仰せは「一念多念文意」というご書物にお示しになられたものです。

本願の名号南無阿弥陀仏のお心を、「必ず救うわれにまかせよ」のお呼び声を、疑いの心(疑心)なくお聞かせいたたくと、私たちの心に阿弥陀さまから賜る他力の信心、阿弥陀さまにわが身をおまかせする心が備わります。

自分をより処にすることのない、自分勝手な思いで聞くのではない、阿弥陀さまの慈愛に満ちた呼び声をそのままいただき、何事があっても安心して生き抜けるご縁を、お育てを、賜りたいものです。

専如門主伝灯奉告法要団体参拝

募集のお知らせ

本年十月から本山西本願寺では、専如門主が前門さまから法灯を継承されたことを奉告する法要を十期に渡り執行します。

高千穂組では、明年四月二日から二泊三日の日程で法要参拝を行います。

つきましては、団体参拝の募集を行いますので、参加を希望される方は金光寺までお問い合わせください。

なお、当山からは住職を含めて十名の参加となります。